

平成30（2018）年度 入退院支援連携デザインに係る研修
<第2回多職種研修：地域住民への普及啓発～ACPについて～> 開催要項

1. 目的： 入退院支援連携に係る在宅医療と介護の連携体制の構築に向けた先駆的事例（自治体・医療機関）から効果的な実践を学ぶ。
2. 主催：沖縄県
一般社団法人 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
3. 対象：市町村職員、地域包括支援センター職員、医師会コーディネーター、
認知症コーディネーター、生活支援コーディネーター、社会福祉協議会職員等
4. 定員：90名
5. 日時：平成31年03月09日（土）13：30～16：30（受付13：00～）
6. 場所：沖縄県総合福祉センター 東棟403研修室
〒903-8603 沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目373-1
電話番号：098-882-5811 FAX：098-882-5820

7. 講師：

**講演①「認知症高齢者の“家に帰りたい”を支える取り組み
～自己実現・社会参画を目指したACP～」**

猿渡 進平氏（医療法人静光園白川病院 医療連携室室長／医療ソーシャルワーカー）

「認知症ケアコミュニティ推進事業」なかでも徘徊模擬訓練で有名な福岡県大牟田市。白川校区で2007年に初めて訓練を実施した時に、中心的な役割を担った白川病院医療ソーシャルワーカーの猿渡進平氏は、「地域に見守り力があれば、、、」とっていました。退院支援をしていたお年寄り達が、「家に帰りたいけれど、子どもに施設に入ってくれと言われてね」とこぼすのを聞いていたからです。認知症があつたり、家族が近くにいなくても、自分らしく住み慣れた家で暮らしたいという高齢者を地域全体で支える仕組み作りと、地域で働く私達の仕事を見直します。

**講演②「地域の老人クラブと医療者で考えるエンド・オブ・ライフケア
～「私の意思表示帳」の共同制作と普及啓発活動～」**

内田 信之氏（NPO法人あがつま医療アカデミー理事長、原町赤十字病院副院長）

「あがつま医療アカデミー」は、群馬県吾妻郡の地域住民それぞれが、エンド・オブ・ライフケアについて深く考えるきっかけを提供し、住民・医療者が一体となって、自分らしく生きるための地域社会作りの一旦を担うことを目指した活動を行っています。

吾妻郡6町村の老人クラブ連合会と吾妻郡の医療従事者が協力して「私の意思表示帳」を共同製作し、吾妻郡内の様々な団体を対象に研修会を開催したり、一般住民を対象としたフォーラム開催時に配布する等、住民と協働した活動の過程を学びます。

8. 参加費：無料

9. プログラム：

- 13：00～13：30（30分） 受付
- 13：30～13：40（10分） 開会挨拶（主催者：沖縄県高齢者福祉介護課）
オリエンテーション
- 13：40～14：40（60分） 講演①
- 14：40～14：50（10分） 休憩
- 14：50～16：20（90分） 講演②
- 16：20～16：30（10分） 開会挨拶（主催者：沖縄県医療ソーシャルワーカー協会）
アンケート記載

【お問い合わせ先】

一般社団法人沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

沖縄県入退院支援連携デザイン事業 事務局

〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目373-1

沖縄県総合福祉センター 2階 小規模団体室

Mail: jim.msw.oaswhs@gmail.com

〒902-8511 那覇市古島2-31-1 那覇市立病院 医療福祉相談室（樋口）

TEL：098-884-5111（内線127）

Mail: soudan@nch.naha.okinawa.jp